

1. 環境

TeX を事前にインストールしてください。

platex.exe および gswin64c.exe, gswin32c.exe, rungs.exe のいずれかにパスが通っている必要があります。

※ 本家 Ghostscript では 64bit 版と 32bit 版で実行ファイルが異なります。

※ TeX Live を使用している方 (tlgs) の実行ファイルは rungs.exe です。

emf 形式を選択するときは、pstoedit をインストールする必要があります。

※ TeX Live では pstoedit はインストールされないようなので自分でインストールしてください。パスを通す必要があります (環境変数の PATH に pstoedit をインストールしたフォルダを追加)。

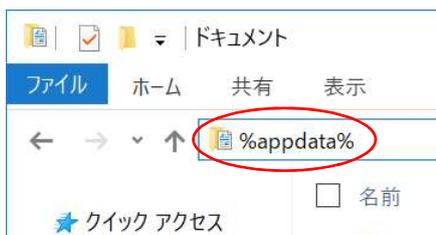
2. インストール

MuraTeX.ppam を次のフォルダにコピーしてください。

コピー先 C:\Users\ユーザー名\AppData\Roaming\Microsoft\AddIns

(参考) コピー先フォルダの見つけ方

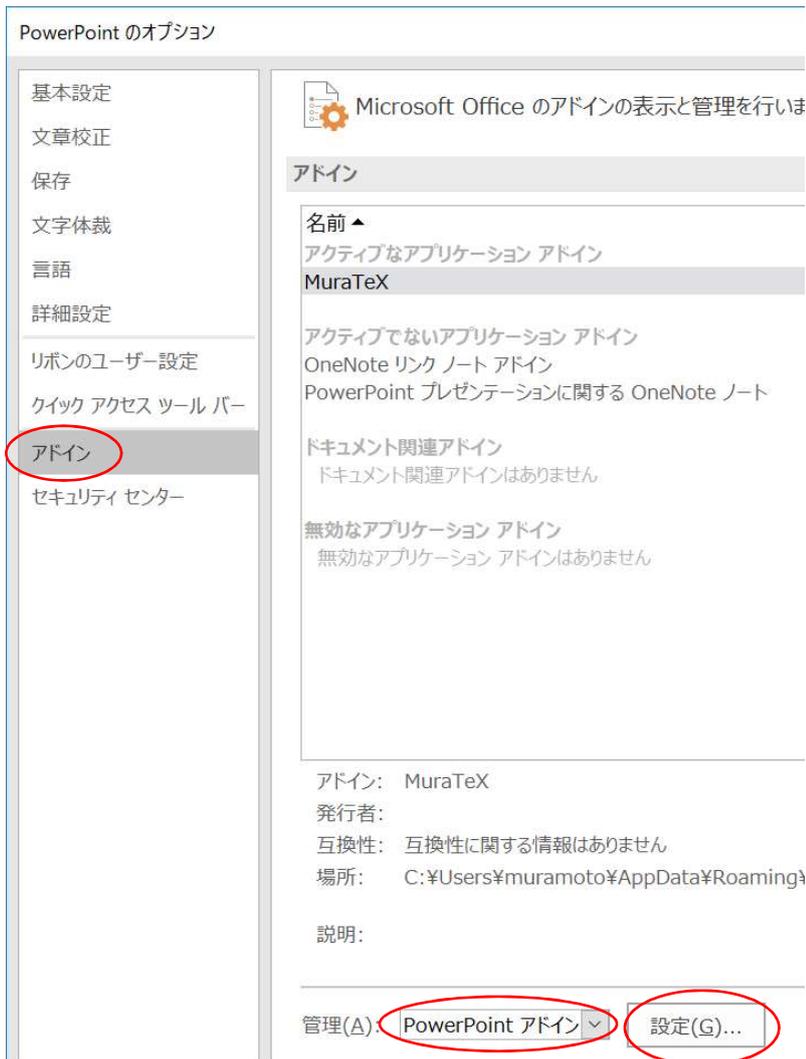
エクスプローラに %appdata% を入力した後、Microsoft→AddIns を選択していきます。



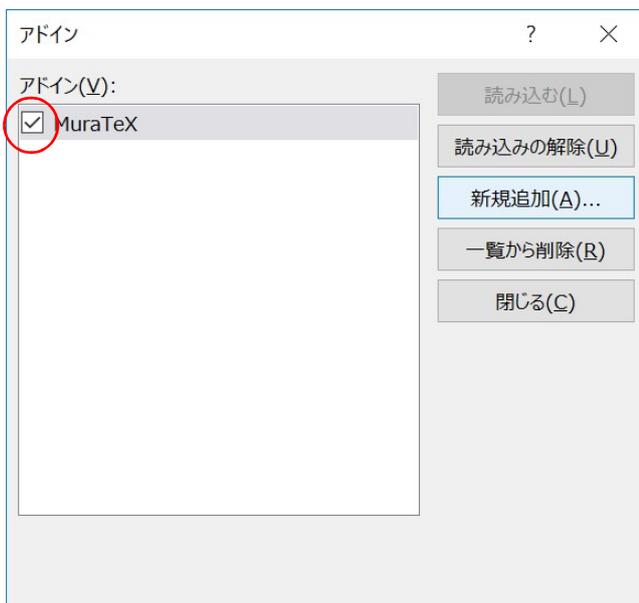
(参考) コピー後の状態



ファイル→オプションを開き、「アドイン」をクリックし、管理で「PowerPoint アドイン」を選択し「設定」ボタンを押す。



「新規作成」をクリックして、MuraTeX.ppam を開く。MuraTeX に✓が入っていることを確認する。



3. 使い方

①アドイン→MuraTeX を選択します。



②「Option」ボタンをクリックして初期設定を行います。

解像度：プレゼン用の場合は 300 を推奨します。

スケール：プレゼン用の場合は 200～300 を推奨します。

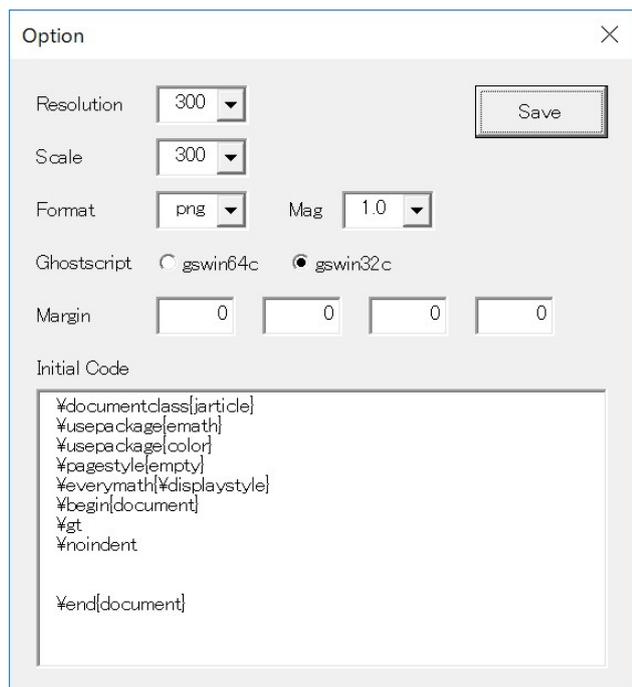
画像形式：プレゼン用の場合は png を推奨します。プレゼン用としては emf を推奨しません。

拡大率：PC 環境による補正用で、画像形式が emf の場合のみ有効です。

Ghostscript：TeX の環境に合わせて選択してください。

余白：通常 0 で構いません。必要な場合、左・右・上・下の余白を設定します。

ソースコード初期値：MuraTeX を再選択時から有効です。



③ソースコードを記載して「Execute」ボタンをクリックしてください。コンパイルでエラーがなければ Word にオブジェクトができあがります。オブジェクトを選択した状態で MuraTeX を選択すれば、再編集可能です。